近森リハビリテーション病院　作業療法科

科長　中島 美和

はじめに

2022 年は昨年に引き続き新型コロナ感染対策を継続しつつ、対象者の機能回復の促進、生活障害の改善、円滑な家庭および社会復帰に向け、専門性の向上とチーム医療に取り組んだ。9 月以降はコロナ陽性患者の受け入れも開始され、人員配置や業務調整など柔軟な対応が必要であった。

運営実績について

１．人員について

4 病棟 8 ユニットの病棟担当制で、各ユニットには療法士長または主任を配置、4 月には新人職員 4 名を迎え、各病棟 10～11 名(1 ユニット 5～6 名)体制とした。外来配属 2 名のうち 1 名は午前外来リハを、午後は病棟フォローや訪問リハ業務を兼務している。9 月には 4 東病棟がコロナ陽性患者の受け入れを開始し、人員配置の調整を行った。例年通り、急性期の近森病院と、整形専門の近森オルソリハビリテーション病院、訪問リハ部門との施設間異動を行い、経験値の向上に努めた。

２．患者数について

2022 年に退院した入院患者 682 名のうち、作業療法（OT）は 672 名（98.5%）の依頼箋が出ている。疾患別内訳は表 1 の通りで中枢性疾患が 7 割を超えているが、9 月よりコロナ陽性患者の受け入れを開始したこともあり、例年より廃用症候群が多かった。毎月の実施単位数は表 2 に示す通りで、稼働率により増減はあるものの、365 日の勤務体制で作業療法を提供し、早出遅出体制も継続し病棟 ADL 向上に努めている。患者一人あたりの作業療法は 2.4 単位で、昨年に比べわずかに減少しており、感染対策のためフロアを超えたフォローの制限や、スタッフの欠勤増の影響があった。

外来患者の実施者数は、実施単位は表 3 に示す通り 200 単位前後で推移しており、月ごとの変動はあるが、退院後の心身機能向上、活動向上、社会参加を目的に実施している。

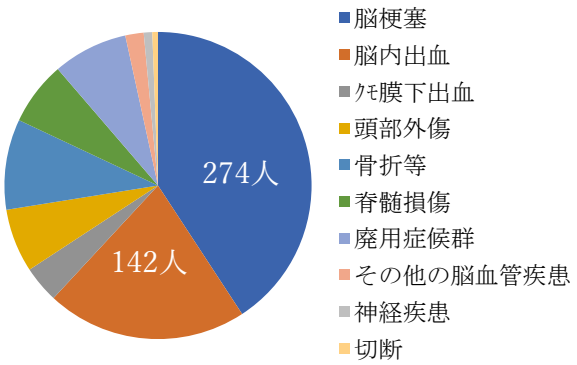

表 1　OT 入院患者内訳（n＝672）

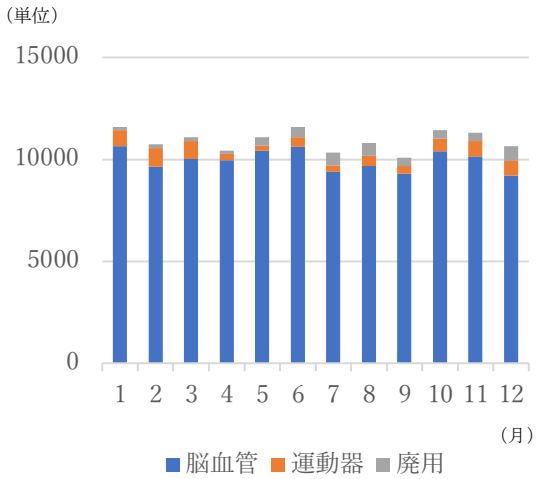

表 2　入院患者 OT 疾患別単位数

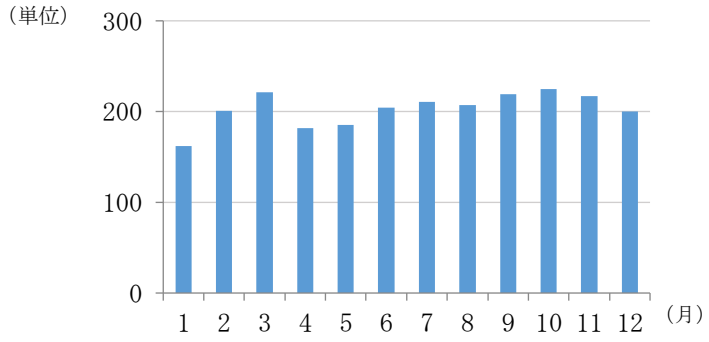

表 3　外来患者 OT 単位数

事業計画について

①臨床

回復期での作業療法は、退院後の生活再建に向けて様々な作業の焦点化、主体的な ADL・IADL の習慣化、包括的支援、身体や操作機能の改善、環境調整などがキーワードとなる。中でも心身の機能回復は将来の生活の基盤となるため、エビデンスに基づいた治療的介入と生活へ汎化を示していくことが求められている。当院でも麻痺手の改善に向け上肢ロボット、反復促通療法（川平法）、電気刺激、CI 療法（課題指向型アプローチ）など様々な手法があり、患者の状態に合わせた活用に努めている。

また、ADL や IADL など活動面へのアプローチはリスクを予測しつつ、予後予測に基づいた段階付けが必要であり慎重に進めている。訓練中の重大な事故は発生しておらず、訓練場面での転倒 5 件、移乗介助中の皮膚剥離 3 件であった。退院後の家事活動獲得に向けた調理訓練は 59 件で例年よりやや少なかった。施設外での買物訓練や公共交通利用訓練はコロナ感染対策のため実施できていない。

中枢神経疾患に生じやすい高次脳機能障害はその程度に関わらず、退院後の日常生活だけでなく就労、自動車運転など社会生活にも大きな影響を及ぼす障害である。特に自動車運転は注意力や視空間認知、状況判断が必要であり、運転の可否には医師の診断が重要視されている。作業療法科では 2021 年より評価基準を統一した「自動車運転報告書」を作成し、包括的な運転評価やデータ蓄積に努めている。また退院後は、医師の指示に基づき外来リハで支援を継続している。

②教育

若手スタッフが多い現状の中で、主任を中心とした OJT を重視しており、対象者個々の目標立案や訓練プログラムの検討を重ね、作業療法の質向上へ努めている。

作業療法科の重点項目である上肢ロボット、CI 療法、ADL・IADL・高次脳機能・自動車運転の専門チームは、主任を中心に活動を継続しており、それぞれの分野の勉強会やマニュアル作り、データの蓄積に取り組んだ。リハ部全体での取り組みとしては吸引実技研修、ノーリフティングケア実技研修を行ったが、感染予防のため訪問リハ研修は見合わせる形となった。

県内外の養成校から依頼された臨床実習は、限り受け入れを継続しており、指導者認定となる臨床実習指導者講習会へは 9 名が参加した。

③研究・発表

前述の専門チームにおいては、継続的にデータの蓄積を行い、研究発表へ繋げるよう取り組んだが、コロナ禍で専門チームでの活動に制限があった。今後は主任のリーダーシップを高めつつ、個々の臨床の成果を整理し発表する機会を作っていく。

また、全体的に職能団体認定取得への取り組みが少ないため、スタッフ個々の専門性向上に向け、専門チームの活動継続、ラダーのステップアップをすすめ、事例報告や研修参加を推進していきたい。

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
当院外来ＯＴにおける脳卒中患者の自動車運転再開の実態について	市川 彩湖 関 優一郎 中島 美和	第 31 回四国作業療法学会	2 月 26～27 日
脳梗塞により視野障害を呈した症例の自動車運転再開に向けた介入～ドライビングシミュレーターのリプレイ機能を活用した一症例～	野中美梨 関 優一郎	第 31 回四国作業療法学会	2 月 26～27 日
当院外来ＯＴにおける脳卒中患者の自動車運転再開の実態について	市川 彩湖 関 優一郎 中島 美和	第 53 回中四国リハビリテーション医学研究大会・第 48 回日本リハビリテーション医学会中国・四国地方会	12 月 4 日香川